

# 総合的な学習の時間学習指導案

平成20年9月30日(火)～平成20年12月10日(水)

中学校1年A、B組(37名、36名)

指導者 松原 裕

単元名 「生き方探究」

単元の考察

## 1 生徒の実態

中学校1年である生徒はこれまでの生活経験や学習から、身近な職業の様子や働くことの大切さについては少しずつ理解している。また、将来のことについても考え始め、将来の夢や就きたい職業などももち始めている。

そこで、この学習を行う前に、次の5つの項目、将来就きたい職業とその理由、勤労・職業の目的、働く人の気持ち、自分が働くときの気持ち、将来の夢や目標に向けて取り組んでいること、について69名の生徒を対象に調査を実施した。

「将来就きたい職業とその理由」の設問では、多くの生徒がすぐには書けなかったが、時間をとり、少し考えさせたら職業名やその理由を書いていた。ほとんどの生徒が自分の希望する職業をもてていることがつかめた。未記入の3名の生徒はアンケート実施中に助言をしたが、何も書くことができなかった。希望する職業を選択した理由は、「みんなのため、お客さんに喜ばれたい」といった社会貢献を理由に挙げた生徒が43%と最も多く、「自分の趣味や特技を生かしたい」という自己実現が36%、「お金のため、儲けたい」という生活維持を挙げた生徒は7%であった。その他の理由としては、「家業」、「楽しそう」、「格好いい」などと答えていた。

「勤労・職業の目的」の設問では、「家族やお金のため」といった生活維持のためと思っている生徒がもっとも多く、91%であった。続いて「自分のため、生きがい」といった自己実現が42%、「人のため、みんなのため」といった社会貢献は28%という結果であった。

「働く人の気持ち」の設問では、「家族のため、多くの収入を得るため」といった生活維持が39%、「人のため」という社会貢献が16%、「自分のため」という自己実現が7%、その他、「苦しい、大変」が15%、「頑張っている」が29%、「やめたい、面倒」が10%であった。「楽しい」と答えた生徒は13%であった。

「自分が働くときの気持ち」の設問では、「楽しく」が28%と一番多く、続いて、「一生懸命、頑張る」が26%、「みんなのため(社会貢献)」が17%、「自分のために(自己実現)」が12%、「生活のため(生活維持)」が10%であった。

「将来の夢や目標に向けて取り組んでいること」の設問では、取り組んでいると答えた生徒は39%であった。その内容としては、部活動や稽古事の練習、日常の学習、働く人の様子を観察するなどであった。

以上の結果から、ほとんどの生徒が将来の夢や目標はもてているが、それを実現しようと考えて実生活の中で取り組んでいる生徒は少ない。また、自分が働くときの思いは、社会貢献、自己実現、生活維持の順であるが、身近で働く人々は生活維持が一番だという結果で、自分と実際に働いている人への見方に大きな違いがみられる。

勤労・職業の目的・意義の三要素である生活維持、社会貢献、自己実現については三つとも理解している生徒は少なかった。多くの生徒は生活維持をあげ、一つも書けなかった生徒は4名であった。

## 2 教材観

新学習指導要領の総合的な学習の時間の目標に、「自己の生き方を考えることができるようにすること」が新たに付け加えられた。

生徒はこれまでの生活や学習から将来について考え始め、夢や憧れの職業、就きたい職業などを考えられるようになってきている。また、身近な人の仕事や身の回りの仕事の内容といった仕事の外見的なことについても少しずつ理解できるようになっている。

このような発達段階の生徒が自己の生き方を考えるとは、将来の夢や目標をもち、それらを実現させるには何をすればいいのかを自分なりに考えて見通しをもつことである。

そこで、本単元は、生徒に将来の夢や目標をもたせ、それらを実現させるためにはこれからの生活で何を努力していけばいいのかを自分なりに見だし、それを実践しようとする意欲をもたせることをねらいとした。

具体的には「将来マップ」の作成を通して将来への具体的な進路の見通しを立て、将来の夢や目標を達成させるための具体的な努力点を見だし、実践しようとする意欲をもたせる学習である。

生徒が将来の夢や目標に向けての見通しをもつためには具体的な進路や自分に必要な資質や能力を知る必要がある。そこで、仕事調べで必要な資格を調べたり、職場見学で聞いたことを基に「将来マップ」を作成したりすることで将来への具体的な進路の見通しをもつことができると考える。

また、職業・勤労の意義や目的について友達と話し合ったり、働く人々から直接話を聞いたりすることで、望ましい職業観・勤労観を身に付けるとともに職業・勤労に対する考えを広げ、深めることができる。そしてそのことが将来の職業生活にも役立つと考えられる。さらに、実際に働く人々と触れ合うことで、働くことの生きがいや喜び、苦勞を乗り越えたときの達成感や成就感を感じるができる。そのことは将来の職業生活だけでなく、これからの生活においても大変参考となるだけでなく、夢を目標を実現させたい、仕事に就きたいという気持ちをもたせることができると考える。

以上のことから本単元は望ましい職業観や勤労観を身に付け、今の自分を見つめ直し、将来に向けての努力点を見だすことで将来への見通しをもつことができると考えるものであり、学習する意義は大きい。

## 3 単元の系統

	【 総合的な学習の時間 】	【 特別活動 】
1 年	〔生き方探究〕(職場見学学習) 働く人々とのふれあいの中で仕事に対する思いや願いを感じ、将来への見通しを考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 将来の職業に向けての学習の必要性や大切さを理解する。</li> <li>・ 将来に対する夢や憧れをもつ。</li> <li>・ 勤労の意義、働く人々の思いに気付く。</li> </ul>
2 年	〔生き方探究〕(職場体験学習) 就業体験することで、仕事に対する思いや願いに触れ、自分の特性を考えながら将来への見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会の一員としての自覚をもつ。</li> <li>・ よりよい生活や学習、進路や生き方を指す</li> <li>・ 勤労の意義や働く人々の思いが分かる。</li> <li>・ 将来の夢を達成するための問題と解決法を考える。</li> </ul>
3 年	〔生き方探究〕(進路学習) 学習で身に付けた職業観・勤労観を基に、将来への進路を主体的、具体的に考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会の一員としての義務と責任を理解する。</li> <li>・ 体験活動を学習や生活に生かす。</li> <li>・ 将来の夢を達成するために努力することができる。</li> </ul>

## 指導方針

生徒の学習意欲を高めるために、課題解決学習を行う。

自己課題を働く人々の生き方や仕事に対する思いや願いに設定させ、働く人々の内面に気付かせる。

「将来マップ」を作成させることにより、将来の目標に向けての具体的な進路とこれからの生活での具体的な努力点を明確にさせることで将来への見通しをもたせる。

ゲストティチャーや職場見学など、働く人々と触れ合う体験活動を取り入れ、体験から自己課題の解決を図らせる。

働く人々と触れ合う活動を通して、仕事に対する思いや願いを感じ取ることで、働く人の内面に気付かせるとともに仕事に就きたいという気持ちを高める。

生活班と観点別班の二種類の話合い活動を学習のねらいによって取り入れることで、働く人々の仕事に対する思いや願いについての考えを広げたり、深まったりできるようにする。

「将来マップ」を基に3学期や2年生での目標を立てさせたり、話し合ったりする活動を行うことで、これからの生活で自分の目標に向けて実践しようとする意欲を高める。

## 単元の目標及び評価基準

(1) 目標：将来への見通しをもって生活することができる。

(2) 評価規準

ゲスト・ティチャーの話や友達との話合い活動を通して、働く人々の仕事に対する思いや願いを自己課題を設定することができる。

仕事の内容を調べたり、職場見学で職場の様子や働く人々の話から自己課題を解決し、働く人々の仕事に対する思いや願いを感じ、まとめることができる。

「将来マップ」の作成を通し、将来の夢や目標に向けて具体的な努力点を見だし、生活目標にすることができる。

## 授業仮説

(1) 「つかむ」過程で、「将来マップ」の作成を行うことにより、将来への意識を高め、そして、働く人々の生き方や仕事に対する思いや願いに触れ、それらについて話し合うことにより、働く人々の思いや願いを探ろうとする意欲も高まり、自己課題を設定することができるであろう。

(2) 「追究する」過程で、仕事調べの後に「将来マップ」の作成により、将来に向けての進路や必要な資格などを明確にするとともに、職場見学で働く人々と触れ合ったり、職場を見学したりして、働く人々の仕事に対する思いや願いを感じることができるようであろう。

(3) 「まとめる」過程では、自ら探った働く人々の仕事に対する思いや願いをまとめたり、それらを話し合う活動を通して、働く人々の仕事に対する思いや願いについての考えを深め、広げることができる。そして、それを基に「将来マップ」の作成を行うことで、将来の夢や目標に向けて具体的な努力点を見いだすことができるであろう。

単元の活動計画 全16時間予定

過程	学習内容	時間	指導上の留意点・手だて	学習形態(自己と集団の関わり)		評価項目等	
				自己	話し合い活動 (生活班) (観点別)		
過 か む	1. 10年後のなりたい自分の姿をイメージする ・就きたい職業のアンケート結果を聞く ・社会の現状を知る  ・「将来マップ」を作成する ・ゲスト・ティーチャーへの質問を考える	1	「将来マップ」に将来の夢や目標、具体的な進路を書かせることで将来に対する意識を高める。 ・アンケートで調べた生徒の就きたい職業の結果を知らせることで職業への興味を高める。 ・ニート、フリーターなどについて説明することで社会の現状を理解させる。 ・「将来マップ」を作成させることで10年後の自分の姿をイメージさせる。 ・働くことに関して聞きたいことを考え、まとめさせ、次時の準備をさせる。		話し合い活動 (生活班) (観点別)	将来マップの作成を通し、自分の将来の姿を想像することができる  [キーワード：職業、上級学校名 内面的ことから等] 評価方法【将来マップ】	
	2. ゲスト・ティーチャーの話や願いを感じる ・ゲスト・ティーチャーの中里さん(製麺所経営者)と代表生徒(3名)との対話聞く ・個人的に質問をする ・話を聴いての感想を書く	1	ゲスト・ティーチャーに語ってもらうことで仕事に対する思いや願いを気付かせる。 ・商品や仕事の様子のビデオを見せたり、略歴を話したりすることでゲスト・ティーチャーへの関心を高める。 ・生徒の疑問が解決できるように生徒の質問を集約したものを中心に生き方や仕事に対する思いや願いを対話形式で語ってもらう。 ・ゲスト・ティーチャーの話や感想を書かせることで、感じたことを記録させておく。			思いを知る	働く人の思いを自分なりに感じ取れている  [キーワード：進路選択、仕事に対する思いや願い] 評価方法【ワークシート】
	3. 「働く人々の思いや願い」のイメージマップの作成を通して仕事に対する考えを広げる ・個人でイメージマップを作成する ・生活班でイメージマップを作成する	1	「働く人々の思いや願い」をイメージマップに作成させることで仕事に対する考えを広げる。 ・職業の三要素についての考えを自覚させるために個人でイメージマップを作成させる。 ・職業の三要素についての考えを広げるために生活班でイメージマップを作成させる。			考えを広げる	職業の三要素を理解することができる  [キー・ワード：生活維持、社会貢献、自己実現等] 評価方法【ワークシート】
	4. 働く人の生き方や仕事に対する思いや願いを自己課題に設定する ・生活班ごとにイメージマップについて発表する ・自己課題を設定する  ・自己課題を解決する職業、職場を話し合う	1	ゲスト・ティーチャーの話やイメージマップを参考にして自己課題(職業の3要素)を設定させる。 ・生活班ごとにまとめたイメージマップを発表させることで職業への考えを広げる。 ・保護者の「働く思いや願い」を知らせることで、身近な人の思いを気付かせる。 ・発表を参考にさせ自己課題を設定させる。(生活維持、社会貢献、自己実現等) ・自己課題の解決が図れるようにするために職業や職場を話し合わせる。			課題設定	話し合い活動を通して「職業」の意義や目的等を自己課題に設定することができる  [キー・ワード：生活維持、社会貢献、自己実現等] 評価方法【ワークシート】

追 究 す る	5. 自己課題を解決するために仕事の内容を調べる。 〔特別活動〕 ・Webページを利用して会社や事業所の概要や必要な資格や試験などを調べる	1	見学場所の仕事の内容を調べさせることで必要な資格や試験を理解させる。 ・仕事の内容や製品・商品、伝統や技術などをWebページを利用して調べさせ、会社や事業所の概要を理解させておく。 ・「将来マップ」の作成で具体的な進路や目標を追加できるようにするために、必要な資格や試験等を調べさせる。	情報収集		仕事の内容、資格、試験などを調べることができる [キーワード：製品名、商品名、伝統、資格、試験等] 評価方法【ワークシート】
	6. 自己課題を発表し合い、将来マップの修正・追加をする ・自己課題を発表する (観点別班) ・「将来マップ」の修正・追加をする	1	観点別班ごとに調べたことを発表し合う活動を通して自己課題の見直しをさせる。 ・観点別班ごとに、自己課題や仕事の内容を話し合わせて「働く人々の仕事に対する思いや願い」についての考えを深めさせる。 「将来マップ」の修正・追加をさせることで進路に対する具体的な見直しをもたせる。 ・仕事調べを基に上級学校、資格、技能、内面的なことを加えさせ、進路を具体的にさせる。		考えを深める	将来への見通しを考えることができる [キーワード：生活維持、社会貢献、自己実現等] 評価方法【将来マップ、発表内容】
	7. 職場見学の準備をする ・見学マナーを知る ・インタビューの内容や見学ポイントを話し合う (観点別班)	1	見学マナーの指導を行う。 ・見学マナーを指導することで、社会規範を理解し、マナーを習得できるようにする。 (あいさつ、電話の応対、質問の仕方、等) ・生徒同士で練習させることで、実践できるようにする。	マナー習得		電話の仕方や見学をするときの話し方など、マナーを知ることができる 自己課題を解決できる質問や見学ポイントを整理できる
	8.9.10. 職場見学で働く人々とふれあう (職場見学学習) ・自己課題を解決する ・働く人の仕事に対する思いや願いを感じる	3	自己課題が解決できるようにするためにインタビューの内容を考えさせる。 ・自己課題が解決できるように質問事項や見学の観点を観点別班ごとに考えさせる。 ・各観点別班ごとに共通な質問を設定させることにより、観点別班のまとめのときに仕事によって思いや願いが比較できるようにする。 ・職場見学が安全に行えるように交通安全指導や緊急時の連絡方法を確認する。 職場見学をさせることで働く人々の仕事に対する思いや願いを感じさせる。 ・自己課題を解決することができるように観点を絞って質問させる。(進路選択の理由、仕事に対する思いや願い、喜び、苦工夫等) ・働く人の仕事に対する思いを感じるために仕事場の様子、周りの環境等も注意深く観察するように指導しておく。 ・働く人の様子や職場の様子などを写真に撮らせることで、自己課題のまとめに活用させる。	思いを感じる	課題確認	働く人々の思いを感じることができる キーワード：進路選択、思い、願い、喜び、苦労等] 評価方法【ワークシート】

ま と め	11. 自己課題のまとめをする。 ・ 職場見学の整理をする (事業所ごと)  ・ 自己課題のまとめをする ・ カット割り ・ 下書き ・ 清書 (自己学習)	1	職場見学のまとめをすることで自己課題を解決させる。 ・ 自己課題(職業の三要素)についての自分なりの答えや考えを整理させるために四つ切り用紙1枚にまとめさせる。 ・ 事業所ごとに見学のプリントを整理させることで聞き落としや見落としを補わせる。 ・ まとめに使う写真は教師が作成した一覧から生徒に選ばせることで時間の短縮を図る。 ・ 教師が自己課題のまとめの具体例を示すことで、生徒の作成の参考とさせる。 ・ 会社や事業所の概要と働く人の仕事に対する思いや願いを明確に分けて書かせることで見やすく、発表しやすいものにさせる。 ・ 次時の自己課題のまとめの発表のために3分程度で発表できるように準備させる。	課題解決		働く人々の生き方や仕事に対する思いや願いをまとめことができる  [キー・ワード: 生活維持、社会貢献、自己実現、生きがい、喜び、工夫 等] 評価方法【自己課題のまとめ】
	12. 自己課題の発表をする (観点別班) ・ 観点別班で一人ずつ発表する (一人3分程度)  ・ 観点別のまとめの準備をする	1	観点別班で自己課題のまとめを発表させることで仕事に対する思いや願いについての考えを深めさせる。 ・ 観点別班で一人ずつ発表させことで、仕事に対する思いについての考えを深めさせる。 ・ 観点別班のまとめの準備のために、まとめに事柄を付箋に書かせておく。		考えを深める	自分の感じてきた働く人々の思いや願いを友達に伝えることができる [キー・ワード: 生活維持、社会貢献、自己実現、生きがい、喜び 等] 評価方法【自己課題のまとめ】
	13. 観点別班のまとめをする (観点別班) ・ 観点別班ごとに観点にそって模造紙にまとめる。 ・ 発表の準備をする。	1	観点別班のまとめをさせることで仕事に対する思いや願いを整理させる。 ・ 前時の付箋を基に観点別班ごとにまとめさせることで思いや願いについて整理させる。 ・ 次時の発表のために準備をさせる。		考えを整理	異業種の思いや願いを知ることができる [キー・ワード: 生きがい、喜び、苦勞、努力 等] 評価方法【観点別班のまとめ】
	14. 観点別班のまとめを発表する ・ 観点別班ごとに発表をする ・ 保護者の感想を聴く (学級発表)	1	観点別班の発表を通し、仕事に対する思いや願いについての考えを深め、広げさせる。 ・ 班ごとに発表させ、考えを深め、広げる。 ・ 保護者から意見や感想をいただき、仕事に対する考えを広げ、深めさせる。	考えを深め広げる		思いや 願いに対する考えを広げ、深めることができる [キー・ワード: 生活維持、社会貢献、自己実現 等] 評価方法【ワークシート】
	15. 「将来マップ」を完成させる ・ 「将来マップ」に追加・修正を行う。	1	自己のまとめ、学級発表を参考にして「将来マップ」を完成させることで、将来への具体的な見通しをもたせる。 ・ 「将来マップ」に具体的な進路、働く人とのふれあいから気付いたことを追加させることで、将来への見通しをもたせる。	見通しをもつ		将来への見通しをもつことができる [キー・ワード: 具体的な目標、資格、努力点、等] 評価方法【将来マップ】
	16. 将来について話し合う 【特別活動】 ・ 自分の夢や目標を発表する ・ 3学期、2年生の目標を立てる		将来の目標、3学期や2年生での目標を話し合わせることで、これからの生活で実践しようとする意欲を高める。 ・ 班で目標を発表し合うことで意欲を高める。	目標に向けての決意		生活目標を立てることができる [キー・ワード: 生活目標] 評価方法【ワークシート】